

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270200017		
法人名	太陽とみどりの里		
事業所名	グループホームなごみ(月山ユニット)		
所在地	島根県安来市広瀬町広瀬117-3		
自己評価作成日	令和3年1月20日	評価結果市町村受理日	令和4年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokennsaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	令和4年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和3年4月に新築移転を行い、新しい環境の中で自分らしさを忘れずという理念に基づいた支援を行っています。段々と重度化していく中で、その人にあった支援を見直し柔軟に対応できるようにしています。コロナ過の中、外出が通常のようにできないのが悩みですが、近くの公園にお弁当をもって出かけたり、近所の神社にお参りに行ったりと場所を選びながら気分転換を図っています。8月より一部ですが協力病院の訪問診療を受け医療の充実も図っています。終末をホームで希望される方もあり、出来るだけ希望に添えるように支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新築移転では、幾人かは、勝手が違うことで、混乱された方もあったが、3か月も経つと落ち着かれたという。グループホームなごみの開所当初からの理念「安心して生活できる空間をともに創り、そのひとらしく生活できるように支援していく」を新ホームでも引継ぎ、個々人の個性を最大限尊重したケアに取り組んでいる。数年に及んでいる新型コロナウイルス感染防止対策にも社会福祉法人として一体的に取り組んでおり、面会室での面会や電話、手紙の活用などを通じて、なじみの関係継続に努めている。広い敷地を活かし、周辺での日光浴や散歩、ホールや多目的室を利用者が自由に行き来し、運動量を確保している。テラスから庭に出て外活動するなど利用者の心身の健康維持にも配慮している。居室やホールでの転倒の危険を回避する工夫なども随所に見られた。現在休止中の認知症カフェも、地域住民にとって欠かせないものとなっているので、再開が待たれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念を作成し、職員会で担当を中心に、個人の目標を考えながら支援に取り組むようにしている。	新築移転後もグループホーム独自の理念「同じ空間で共に・・・」は職員で共有されており、理念に基づいた質の高いケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新しい自治会に入会をした。コロナで実際の付き合いはできていないがミニデイの参加の方が訪ねてこられ、自分たちが作られたものをいただいたりしている。	引っ越し後も早速自治会に入るなど積極的に地域との交流を働きかけており、コロナ禍にあって、落ち着いたところでのさまざまな交流イベントも計画されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍において「認知症カフェ」の中止をしている。新しい場所での「カフェ」の行い方を検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で報告文書の配布にとどまっている。	コロナ禍にあって、会議が開けないが、文書においてホームでの暮らしぶりを詳しく報告されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議や運営推進会議などが行われない状況ではあるが、福祉課や介護保険課との連絡調整を行っている。不明な点は電話等で確認をしている。	認知症を改善しながら暮らすためには、グループホームの利用がより良い支援であることから、経済的に困難な方でも、入居できるよう市の担当者とも相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束虐待防止委員会を職員会に合わせ開催し、定期的な研修を通じ、身体拘束をしないケアについて再確認をしている。	利用者さんは皆それぞれに職員に見守られて自由に過ごしており、身体拘束はまったくない。ホームの外へもコロナ禍にあって、近場には日常的に出かけており、開放的である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会時に定期的に虐待についての話し合いや研修を行い、不適切ケアを含めて理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を中心に内部研修を行っている。成年後見人制度利用の方がいるため、スタッフ全員で理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始の前に見学を柔軟に受け入れ、不安を解消するように努力している。また、短期入所を利用しながら入所につなげたりしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会制限が続いていたが、毎月1回の便りや電話などを利用しコミュニケーションをとるようにしている。	利用者さんのご家族とは、入居時から常に連絡を取り合っており、相談や意見を受けて、速やかに対応、返事を返している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面接を行い要望や意見を聞いている。日常においてもコミュニケーションをとるようにしている。	職員にも個別の面談を行って、希望や思いを聞ける環境を目指している。組織として機能できるように思いも伝達できる工夫もしており、新築されたこともあって、ホーム運営には職員の意見が十分に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、個人の状況を把握している。職員会等で業務の見直しをしながら改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用や異動してきた人に対して、エルダー制度を独自に導入し支援をしている。インターネット配信で全国グループホーム協会の研修等を行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今の時期交流ができないことが残念である。研修で知り合った同業者との意見交換で終わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族やケアマネージャーからの情報をもとに本人の状況を把握し、安心して生活が出来るように職員全体で信頼関係を作れるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前見学や短期入所を通じて状況を把握しながら、今後の支援について話し合い信頼関係を築くように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族との面会や関係機関の情報提供をもとにカンファレンス等を行い、必要と思われる支援を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯物干しや調理の補助など出来ることはしてもらっている。利用者同士助け合って生活をされている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への情報提供を行いながら、交流を行っている。また、情報交換をしながら協力を求めることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同級生が訪ねてこられ、窓越し面会をしてもらったり、電話等で交流をされている。自宅のミカンを取りに行くことを継続されている人もいる。	自宅に訪問して旬のくだものや野菜を採りに行ったり、親戚や知人との連絡を絶やさないなど新型コロナウイルス防止対策下においても馴染みの関係が途絶えない支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係をスタッフが把握しながら、生活の配慮をしている。居室で一緒にお茶を飲んだり、話をしたりされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や入所されても、機会があれば面会をしていたがコロナのためにできなくなっているが、ケアの内容や情報提供は行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当を中心に情報収集を行い、若いころからの習慣や行ってたことなどを理解しながら、出来ることを継続してもらっている。	利用者、家族との普段の会話から、どうい生活をしてきたか、何を望まれているのか引き出している。担当制により、より深く個人を知る工夫もしており、質の高いケアの実践につながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人・家族からの聞き取りを行っている。信頼関係を作るための時間を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやケース記録を見ながら現状の把握に努めている。ミニカンファレンスを開き、検討もしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当と計画作成者・介護支援専門員が利用者・家族への意向を聞きながらケアプランを作成している。毎日ケアのポイントをチェックし、支援している。	職員が1~2名を担当して利用者、家族とともに話し合ってケアプランを作成している。毎日ケアのポイントにチェックを入れて、できているかの確認を全員の職員が共有できるようにし変化があれば、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の確認事項を作りケアの内容を把握しているし支援に役立てている。申し送りノートでケアの共有と意見交換を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族には手紙や面会時・電話での状況の報告や要望を聞きコロナ過で出来ることを支援している。本人の希望により、薬局へ買い物に出かけたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの神社への散歩や、顔見知りのお店、公園への遠足など、コロナの感染予防を行いながら出来ることを実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重し今までのかかりつけ医や希望の病院で診察を受けている。重度化により、訪問診療に切り替えたケースもある。	協力病院に夜間や休日にも受診できる状態で通院の介助も行われている。又かかりつけ医の繋がりも継続して行っており、往診可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理、状態変化に応じた支援を行えるように努めている。介助のポイントやアドバイスを聞き、ケアに反映させている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に看護職員は付き添い情報提供を行い、退院時には情報提供をもらいスタッフで共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の希望を尊重している。今年の8月より協力病院から訪問診療に来ていただいている。希望があれば穏やかな雰囲気の中での看取りなども検討している。	重度化、終末期における話し合いは、家族と密にその都度話し合っており、最善の方法を検討している。本人、家族、関係者の協力体制を大切にしており、常勤看護婦の配置もあり、看取りなどにも手厚く対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時のマニュアルを作成し、緊急時の具体的な対応方法は研修も実践につなげている。AEDの講習も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回自治会の協力のもと避難訓練を行っているが、今年度は机上での訓練を行った。	コロナ禍にあって、自治会、消防団の方にも協力してもらっての避難訓練が行えないが、備蓄として一週間程度の食料はある。落ち着いたら再開の予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で何げない言葉で、利用者を不快な気持ちにさせていないか職員会で再確認している。	居室はそのひとらしく個性的な設えで、プライベート空間として大切にされており、利用者同士で、訪問しあっている。生活様式や好みなど、ひとりひとりが尊重され自由に暮らしている。職員も優しく親身に接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己の意思決定ができない方も増えた。支援者本位ではなく利用者がどのように何を望んでいるかその人の思いに沿うような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを守りながら、利用者のペースに合わせた支援を心掛けている。コミュニケーションを取り、同意を得てお手伝い等をしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をされる方への支援や髭剃りなどのケアを行っている。自分で服を選ばれる人にはお気に入りを選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日や行事の日には手作りのお膳を用意している。出来ることは利用者も手伝って下さり、煮しめや茶わん蒸しなど手ほどきを受けた。	食事の盛り付けや洗いものを行っている利用者もおられる。昼食は手作りで家庭的な献立である。職員も業務として一緒に食事をとっている。行事の際には、料理を取り寄せて普段と違うご馳走なども供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量の摂取量の把握に努めている。食事の形態は刻みからとろみまでその方にあった状態でお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは利用者の状況に応じて介助や声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、コストを下げる努力をしている。なるべく本人の思いでトイレに行っていたくように支援している。	排泄パターンを把握して排泄用品のコスト軽減の努力もなされており、利用者の身体機能に応じてのケア提供がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表で一人一人把握し、適切な運動、散歩、牛乳やオリゴ糖で排泄を促している。腸内環境を整えるために職員手作りの甘がゆを通年を通して提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴を基本に、体調や希望により入浴をしている。機械浴の導入により、今までシャワー浴だった方も入浴できるようになり、体調の良い日を選んで入浴していただいている。	入浴が保清だけでなく、楽しい時間でもあるようなケアに心がけている。いやがる場合にも優しく親身にその方の思いをくみながら、頃合いやスタッフを替えてみたりして、入浴につなげている。機械浴も取り入れられて、重症化にも対応できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室以外に様々なところに休憩場所を確保し、好きなところで休んでいる人もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬事情報を確認しながら内容の把握ができるようにしている。その人になった服薬介助を個別に行い、確実に服用できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜作り・炊事・買い物・歌・ゲーム・外出・ドライブなどそれぞれにあった日々の過ごし方を本人の希望に合うように、代弁者である担当者を含め検討している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過で外出ができない状況ではあるが、季節を感じてもらうためにドライブや近場の外出をしている。	新型コロナウイルス防止対策のため、外食や、花見、地域の催し外出の機会を避けているが、日用品の買い物や公園での遊び、散歩などで、日光浴や歩行、気分転換や運動には心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族・本人が希望された場合はお金を所持されている。近所のお店で自分でお金を出して購入をされるのを支援している人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯をお持ちの方は、声かけで家族への電話をされる支援をしている。またハガキで交流されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外の空気や季節を感じてもらうためのスペースを用意し、暖かい日差しときは日向ぼっこができるようにしている。畳のスペースでの洗濯物たたみや、台所での手伝いなど日常の生活を感じてもらっている。	共用スペースには彩りやサイズの違う椅子やこたつがおいてあり、どこにでも好きに過ごせるように開放的で居心地のよい空間を作っている。壁には行事等の写真や季節の花木やタペストリー、棚には、手芸品や置物など、目を楽しませるようレイアウトしている。清潔、除菌なども対応している。春の雛飾りが和室コーナーにあり、ちゃぶ台でのお茶も楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファやたたみなどでゆっくり過ごされている。自分の部屋で話し込んだり、ソファで話し込んだり自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	孫の写真や好きな花に囲まれたり居心地の良い居室づくりに努めている。	居室には家具や家族の写真、仏壇等馴染みのあるものでそれぞれに自分の部屋としてくつろげる空間を作っており、個性的である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具を利用者に合うように設置し、必要な方には介助バーなどを利用し安全に移動できるようにしている。新しい施設なので居室がわかりやすいよう、名前を見やすい場所に変えたり工夫をしている。		